



【九九鳴き浜の蘇生】
(2012年・P100号[162×130cm]キャンバスに油彩)



【椿】(部分)
(2012年・F20号[73×60cm]キャンバスに油彩)



【初夢】
(2013年・M30号[91×60cm]キャンバスに油彩)

いつも心にアートを

季節は芸術の秋。「シャガール展」(宮城県美術館)をはじめ「システーナ礼拝堂500年祭記念ミケランジェロ展」(国立西洋美術館)「京都—洛中洛外図と障壁画の美」(東京国立博物館)など、今年も一度は鑑賞しておきたいアートが目白押しです。そこで今回まぼろしでは宮城教育大学准教授で画家として活躍中の安彦文平先生に絵画の魅力を中心にお話を伺いました。



宮城教育大学
安彦 文平先生

准教授。宮城教育大学美術教育講座では絵画を専門に油彩及び素描等の制作指導を行う。また画家として活躍中で東京芸術大学・野村賞(2000年)、前田寛治大賞展・佳作賞一席(2010年)など受賞歴多数。

美術は心の手足を伸ばす時間

——安彦先生はご専門が絵画ということですが、大学では実技の指導をなさっているんですか？

そうですね、私は絵画の中でも油絵が専門です。「美術科」では、絵画をはじめ彫刻やデザイン、工芸などの作品制作と、美術理論・美術史や美術科教育など造形理論に関する内容など多岐にわたって学んでいきます。広い視野と高度な専門性、実践的な指導力を身につけるために、基礎から丁寧に指導を行っています。そこで私が主に担当しているのが、絵画など造形の土台となるデッサンや、油絵を描く手順や材料の知識を含めた実技指導を行っています。学生は学部4年時には専門とする分野を選択し、その担当教員のもとで研究題目を決定して、より専門性を深めた個別の指導を受け卒業研究を行っています。

——中学の美術の授業数が少なくなってきたと聞きました。

時間数の問題ですね。指導要領改訂で美術は必修教科として残りましたが、1年生が年間45時間、2、3年生が年間35時間。さらに選択教科が廃止され、実質的な美術科の授業時数削減となりました。このことで子どもたちが美術に費やせる時間がとても少なくなっています。問題は中小規模の学校では教師も他の科目と兼任しなければならなかったり、非常勤講師でまかなわれていること。専門でない他教科の先生が教えていることもあります。このように非常勤の先生が授業を受け持つことで、進路の相談や深く美術に触れる機会が減ってきていると感じます。

また、現場では限られた時間数で「表現」と「鑑賞」の両方を授業に盛り込んでいくと、どうしても技術面の低下が否めないのことも聞いております。本気で美術に携わっていききたいという生徒が必ず現れます。その時教師はどのように関わっていけば良いのかが問われるのではないのでしょうか。

——「美術の授業は不要」という声も聞かれますが、先生は美術から何をえられるとお考えですか？

美術や図工は心の手足を伸ばす時間。ただ暗記す

るだけではなく、自ら発想して表現する力が養えると思います。日常の出来事や感動したことを絵に自然に表すなど、様々な体験を素通りするのではなく表現することによって、自己を振り返り乗り越えようとする新たな力が得られるのです。心を開放し自分の行いに自信をもって前へ進むことが大切。自分の頭で考え、感性を働かせながら試行錯誤している子は、必ずステップを踏んでその先へ行けると考えます。

でも、授業として不要か問われると難しいですよ。美術の答えというヒントは、日常生活のそこらじゅうに転がっている。ただそれが見えないだけなんです。基礎や経験を踏んではじめて見えてくるものといえます。算数や理科と違って、世界の美というものは計るものではなく正解がありません。答え合わせは自分の心の中で行います。美術は日頃から心のメモに付箋を貼るように何気ない出来事を集めたヒントを基に表現します。その取り組み自体が重要だと考えます。自分なりに答えを模索すること。分からないからこそ興味や探究心が育まれるのかもしれない。しかし美術においても、教育によって高める必要があると考えます。教師は基本的なものの見方や遠近法、形の仕組や陰影法、道具の工夫、または創ることの喜び、作品の良さなどを伝える義務があると思います。子ども一人ひとりの価値観や発達の違いを認めてあげるとともに、他者との違いに気づかせ客観的に物事を判断する能力も授業を通じて得られるのではないのでしょうか。

——子どもたちの美術の興味を広げるためには、どんな方法がありますか？

美術教育関連または脳科学等の本に目を通すと、よく「褒めることが大切」と書かれています。それは単純なように思えますが、実は子どもの人生を左右するものでもあります。ですから子どもが自主的に描いたものに「もうちょっとちゃんと塗ってごらん」など親や先生が干渉しすぎても自信をなくさせる原因となります。大人が自分の価値観を押しつけるように口出しす

るのではなく、表したものを読み取って理解し、心から応援してあげただけでいいのです。子どもがその時期時期に見出し表現したこと認め見守ることが大切

です。また、子どもたちは成長の中で印象に残った出来事などを絵に表そうとします。一番身近な家族や友達、好きな乗り物や生き物など関心を持ったものを次々に描いていきます。漫画やアニメ等のキャラクターの影響でそれらを描くなど、自発的にナチュラルな表現をします。しかし、小さい時から描く手順など概念を教えてしまうと、描き方にパターンを繰り返し、自ら工夫できる子にならないようです。分からないなりに試行錯誤して、その末に達成感を得るなど報酬として褒められることが上達につながるのではと考えます。ですから、苦手意識を持たず自分の行いに自信が持てれば、創造することに興味を持ち続けることができると

思います。大事なのは自分が楽しいか、面白いと思えるか、ブレない自分があれば、その喜びが自然と人に伝わり広がっていくと信じています。それと実物の作品を鑑賞することが重要です。本当に価値あるものは、心揺さぶる何かがあります。雑誌や教科書などの本やインターネットから得た情報だけで、まるで実物を観たかのように記憶に置き換えてしまう危うさがあるので、実物と対面することをお勧めします。ものに対する感動が希薄になりがちな時代ですから、美術館や博物館に足を運び、自分のもつ全ての感覚を呼び起こすような体験を幼いうちから心掛けてほしいと思っています。鑑賞する上で注意する点は、作品に添えられた解説文などを頼りにせず、自分の感じ方や体験してきた記憶などをよりどころとするような、主体的な見方で感じ取ってほしいことです。とにかく大人が口出ししすぎず、伸びのびと自由にアートに触れさせることが好奇心に繋がるのでしょうか。

知りたいから描き続ける

——先生の作品は写実絵画ですが、なぜ写実を選んだのですか？

現在の作品スタイルになるまではずっとぶん模索してきました。学生の頃には、シュールと言われるような自分だけの不思議な世界を創造しようと試みる作品が多くを占めていました。30代半ば大学で助手として勤めていた頃、現代スペインリアリズムを代表する作家13名のうち唯一日本人である磯江毅さん[※]を招いての講義を担当する機会がありました。磯江氏は、スペインの写実絵画の伝統を獲得し自分の信じる対象を見つめる姿勢を貫いた作品を紹介してくれました。講義終了後に私の作品ファイルをみていただいたのですが、「こんな感じのイラストでCDジャケットあったなあ」と感想をひとこと。そのショックから油絵具の扱い方や制作スタイルを見直すこととなりました。写実の世界を覗いてみると、知れば知るだけ奥の深く生涯かけても際限なくやりがいがあるな、と感じたのがはじまりでしょうか。

※磯江毅(いそえつよし/1954~2007)リアリズム絵画の鬼才。30年に渡りスペインで活動。卓越した色彩感覚、精緻な質感表現で国際的に高い評価を受けている。

——東日本大震災後に描かれた作品は大きな話題を呼んだそうですね。

「九九鳴き浜の蘇生」(2012・ホキ美術館蔵)という作品で、気仙沼の大島にある砂浜を題材に描いた作品です。震災の被害を受けながらも、その年に鳴き浜の再生が認められ国の天然記念物に指定された浜です。私がこの浜を描いたのは偶然からの始まりでした。震災後、海に詳しい友人がインターネットで九九鳴き浜の無事を知り、一生に一回は踏んでみたいと思っていた浜なので、一緒に行こうと千葉から私のところまで尋ねて来てくれました。当初作品の取材という意識は全く無く、壊滅的な被害を受けた町の衝撃だけで心を痛めていました。車で九九鳴き浜に到着した時は夕方近くで、清掃のボランティアの方々が数人いるだけの、もの寂しい光景でした。砂浜は、瓦礫などすっかり取り除かれ人々の苦勞が足跡として刻まれていました。震災以降、何をモチーフに描いても希望がもてない状況の中、息を吹き返し美しい光景を

取り戻した浜の魅力を我々の喜びとして描くことができました。友人に誘われて偶然訪れた地、不意に得た感動が作品に力を与えてくれたのでしょう。

——先生はなぜ絵を描かれるんですか？

なぜ……う……。先ほども言いましたが、知れば知るだけ奥が深く際限なく追求していきけるからでしょうか。まだまだ分からないことが沢山あります。正解のないもの、知りたいから描き続けます。この一枚を描いたことで、この世界を完全に理解できたわけではありません。描いたことで、また新たな課題が見つかります。ものを観察し、描くことは自然の摂理を引き出す方法なのかもしれません。美しい、何故?知りたいという感情がある限り、過去の歴史がそうだったように時間を越え未来の画家がまた描き続けるのだらうと思います。